

地 域 経 済 動 向

平成 15 年 8 月 29 日

内閣府政策統括官
(経済財政・景気判断・政策分析担当)

今回調査（平成15年8月）の前回調査（平成15年5月）との比較

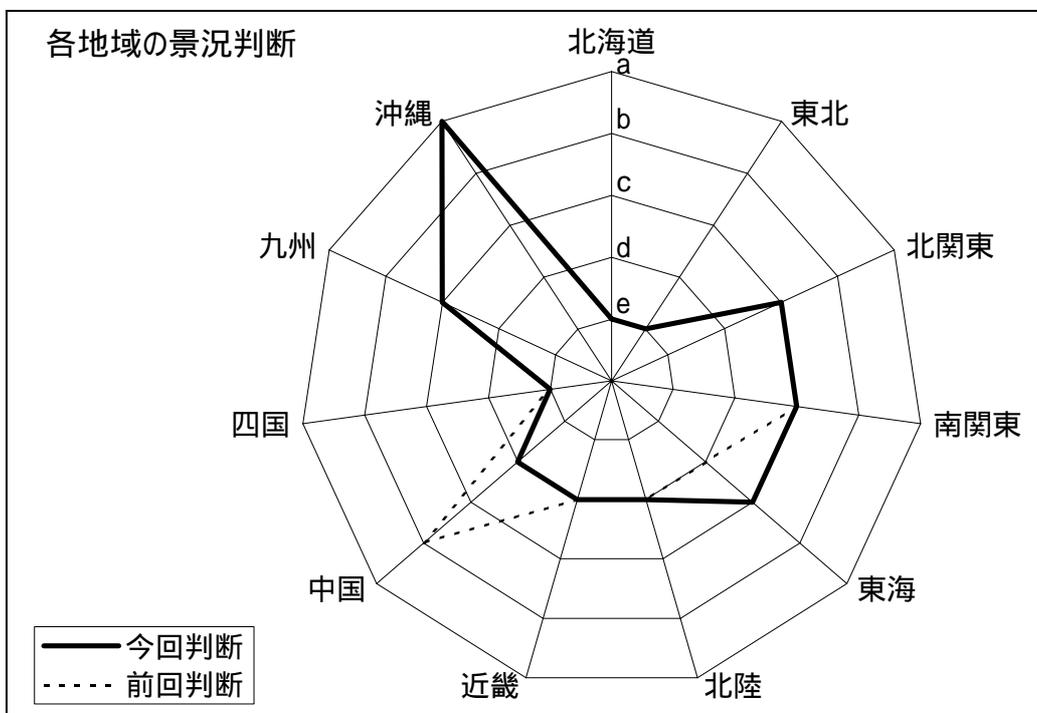
上方修正・・・1地域（東海）

下方修正・・・1地域（中国）

各地域の景況判断は、東海では鉱工業生産、住宅建設などを理由として、上方修正となった。

また、中国では雇用情勢を理由として、下方修正となった。

その他の9地域（北海道、東北、北関東、南関東、北陸、近畿、四国、九州、沖縄）については前回調査と同じである。



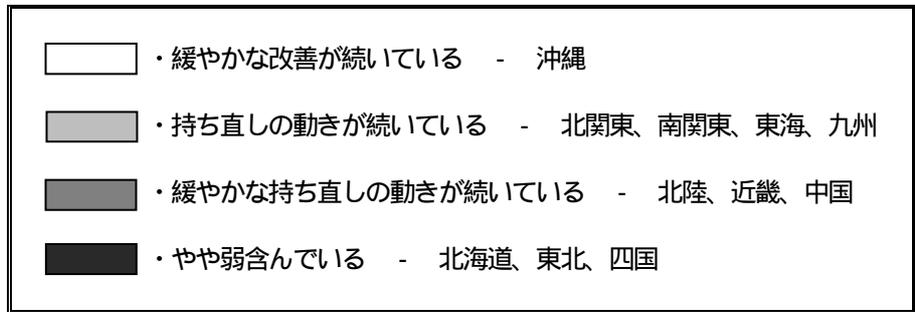
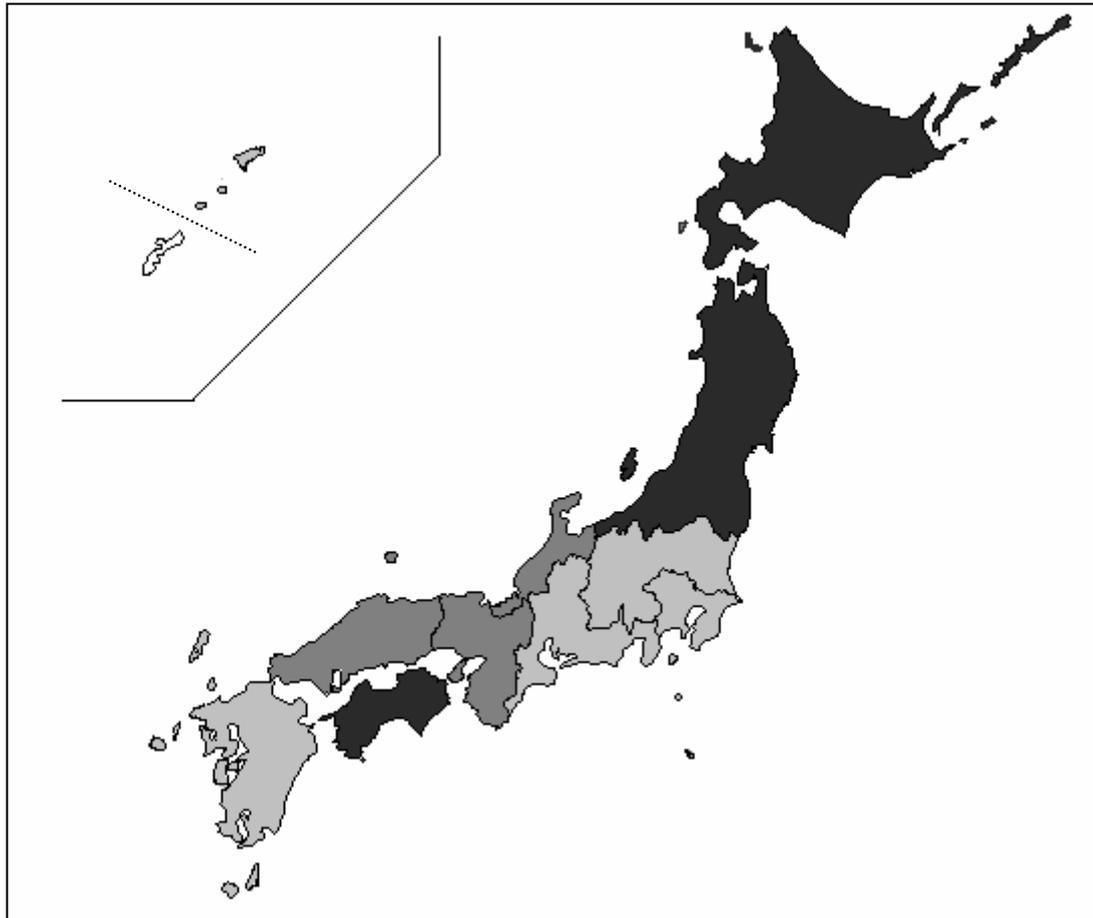
- a: 緩やかな改善が続いている
- b: 改善の動きに足踏みがみられる
- c: 持ち直しの動きが続いている
- d: 緩やかな持ち直しの動きが続いている / 持ち直しの動きが緩やかになっている
- e: やや弱含んでいる

目 次

- 1 地域経済の概況
- 2 地域経済トピックス
- 3 地域経済の動向
- 4 地域景況インデックス
- 5 地域経済関連主要指標
- 6 参考資料

1 地域経済の概況

(1) 各地域の景況判断



各地域の景況判断	北海道	東北	北関東	南関東	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
緩やかな改善が続いている											
改善の動きに足踏みがみられる											
持ち直しの動きが続いている											
緩やかな持ち直しの動きが続いている / 持ち直しの動きが緩やかになっている											
やや弱含んでいる											

(備考) は、今回調査の判断。 は、前回調査の判断。

沖縄では、景気は緩やかな改善が続いている。

- ・観光は増加している。
- ・個人消費は持ち直しの動きが緩やかになっている。
- ・雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善が続いている。

北関東、南関東、東海、九州では、景気は持ち直しの動きが続いている。

- 北関東
- ・鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
 - ・個人消費はおおむね横ばいとなっている。
 - ・雇用情勢は持ち直しの動きが緩やかになっており、依然として厳しい。
- 南関東
- ・鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
 - ・個人消費はおおむね横ばいとなっている。
 - ・雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている。
- 東海
- ・鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
 - ・個人消費はおおむね横ばいとなっている。
 - ・雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。
- 九州
- ・鉱工業生産は緩やかに増加している。
 - ・個人消費はやや弱含んでいる。
 - ・雇用情勢は依然として厳しい。

北陸、近畿、中国では、景気は緩やかな持ち直しの動きが続いている。

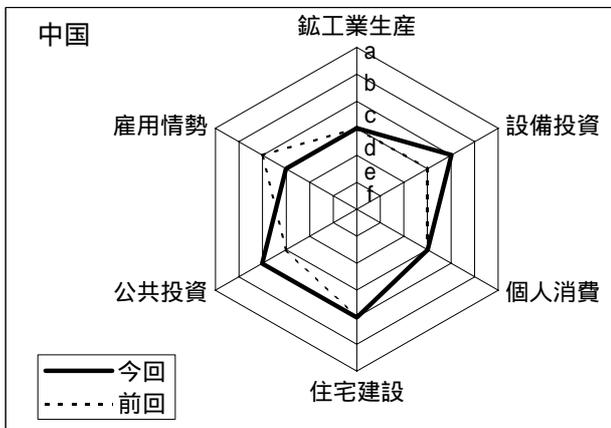
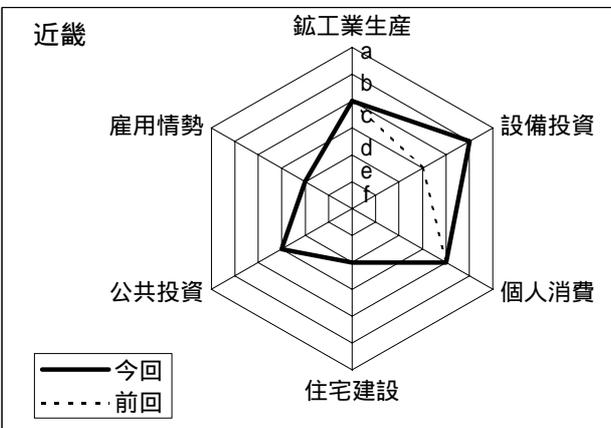
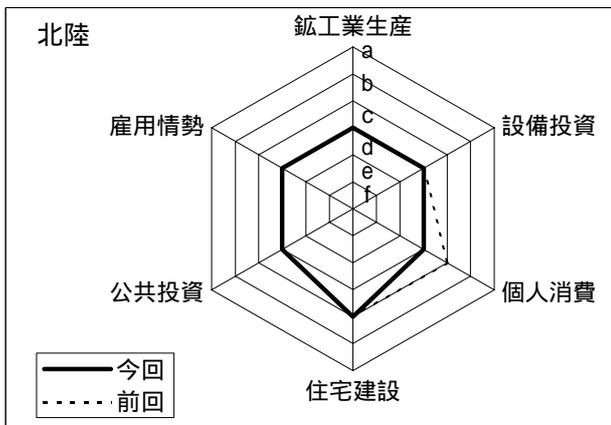
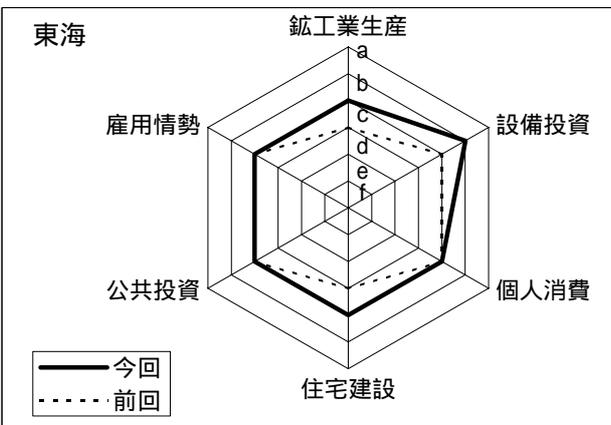
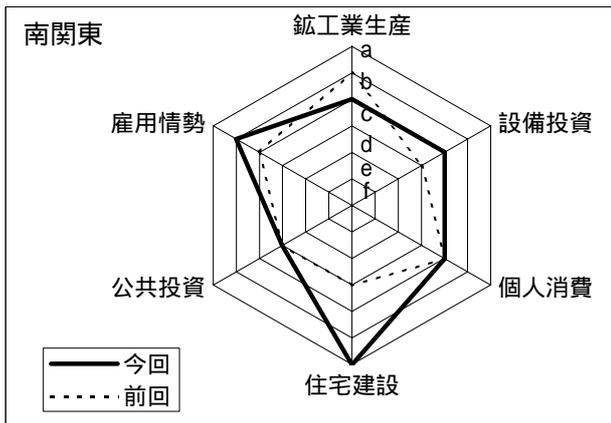
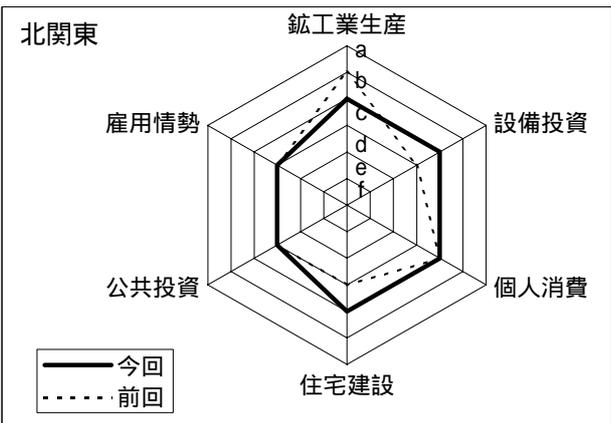
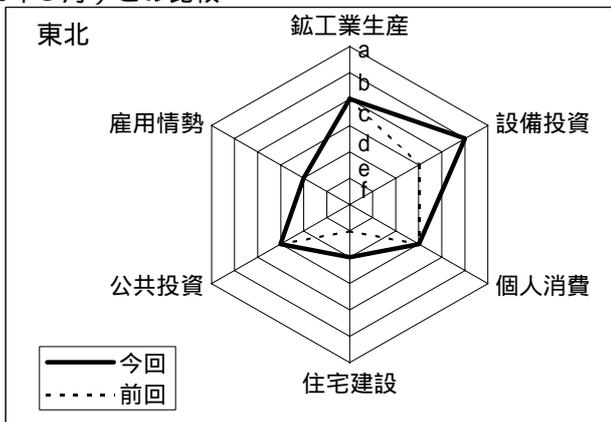
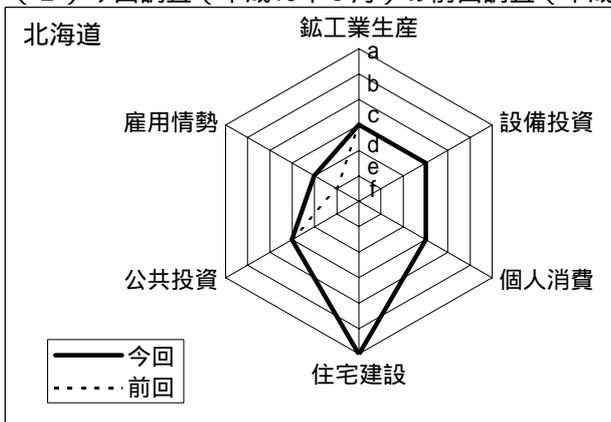
- 北陸
- ・鉱工業生産は緩やかに減少している。
 - ・個人消費はやや弱含んでいる。
 - ・雇用情勢は持ち直しの動きが緩やかになっており、依然として厳しい。
- 近畿
- ・鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
 - ・個人消費はおおむね横ばいとなっている。
 - ・雇用情勢は依然として厳しい。
- 中国
- ・鉱工業生産は緩やかに減少している。
 - ・個人消費はやや弱含んでいる。
 - ・雇用情勢は持ち直しの動きが緩やかになっており、依然として厳しい。

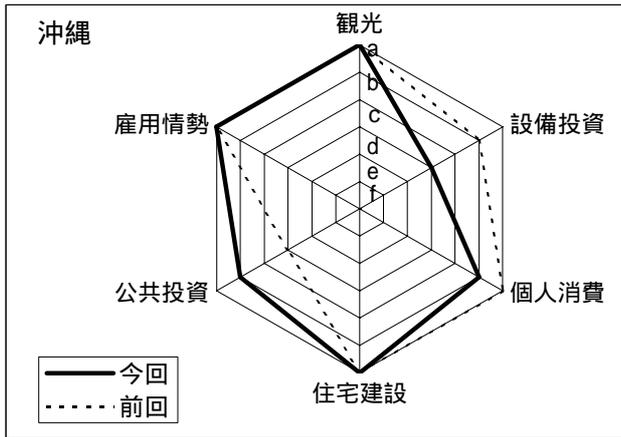
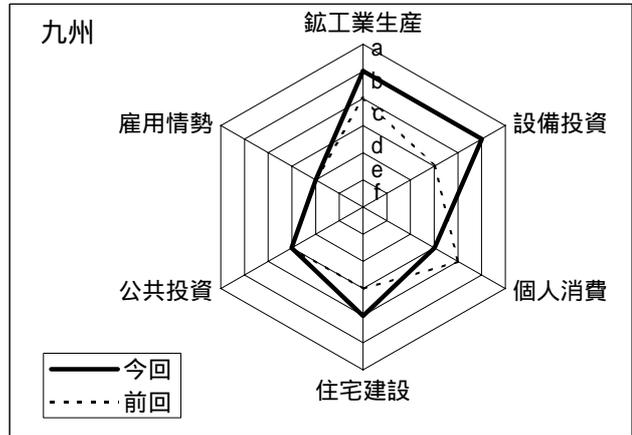
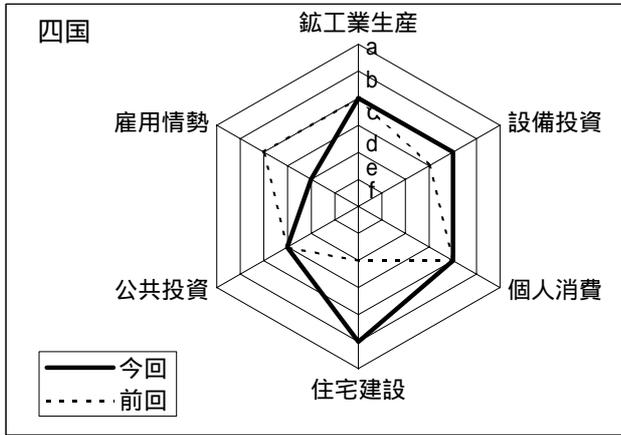
北海道、東北、四国では、景気はやや弱含んでいる。

- 北海道
- ・鉱工業生産は緩やかに減少している。
 - ・個人消費はやや弱含んでいる。
 - ・雇用情勢は依然として厳しい。
- 東北
- ・鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
 - ・個人消費はやや弱含んでいる。
 - ・雇用情勢は依然として厳しい。
- 四国
- ・鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
 - ・個人消費はおおむね横ばいとなっている。
 - ・雇用情勢は依然として厳しい。

(注) 下線を付した箇所は、前回から変更のあった箇所を表す(__は上方修正、 __は下方修正)。

(2) 今回調査(平成15年8月)の前回調査(平成15年5月)との比較





(凡例) 鉱工業生産 (注) 沖縄は観光

- a: 増加
- b: 緩やかに増加
- c: おおむね横ばい
- d: 緩やかに減少

設備投資

- b: 15年度計画は前年度実績を上回っている / 14年度実績見込みは13年度実績を上回っている
- c: 15年度計画は前年度実績とほぼ同水準になっている / 14年度実績見込みは13年度実績とほぼ同水準になっている
- d: 15年度計画は前年度実績を下回っている / 14年度実績見込みは13年度実績を下回っている

個人消費

- a: 持ち直しの動きが続いている
- b: 持ち直しの動きが緩やかになっている
- c: おおむね横ばい
- d: やや弱含み

住宅建設

- a: 増加
- b: このところ増加
- c: おおむね横ばい
- d: 緩やかに減少
- e: 減少
- f: 更に減少

公共投資

- b: 前年を上回っている / 13年度を上回っている
- c: 前年とほぼ同水準になっている / 13年度とほぼ同水準になっている
- d: 前年を下回っている / 13年度を下回っている

雇用情勢

- a: 依然として厳しい状況だが、緩やかな改善が続いている
- b: 依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている
- c: 依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている / 依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる
- d: 持ち直しの動きが緩やかになっており、依然として厳しい
- e: 依然として厳しい
- f: 厳しさを増している

2 地域経済トピックス

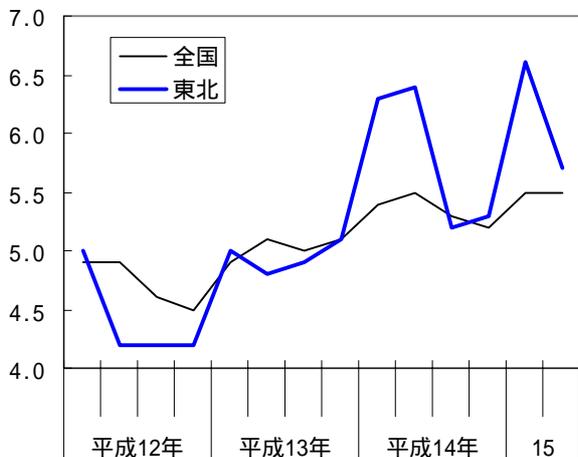
<トピック1> 厳しい状況が続く東北の雇用情勢¹

平成15年1～3月期の東北の失業率は6.6%となり、記録の取れる昭和58年以降で最悪となった後、4～6月期は5.7%となった。また、新規求人の増勢の鈍化から、有効求人倍率の改善も頭打ちになっている(図1-1、図1-2)。

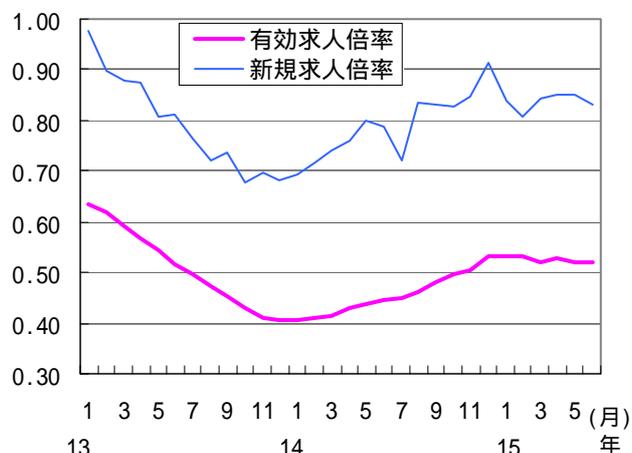
平成15年1～3月期の失業率を年齢別にみると、15～24歳、55～64歳の年齢層などで前年と比較して悪化している。特に15～24歳の年齢層は、水準も14.0%と高い状況にある(図1-3)。

若年者の雇用情勢について、平成15年3月に高校を卒業した者の就職率をみると、一部の県では改善がみられたものの、7県中5県では昨年に比べて悪化した(図1-4)。このように、若年者を中心に、東北の雇用情勢は厳しい状況にある。

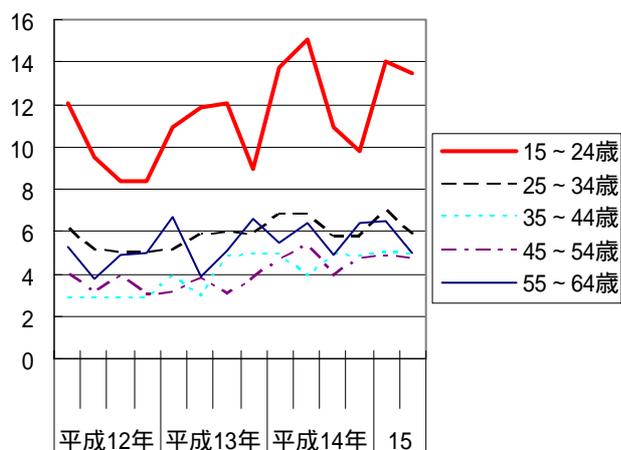
(%) 図1-1 完全失業率(原系列)



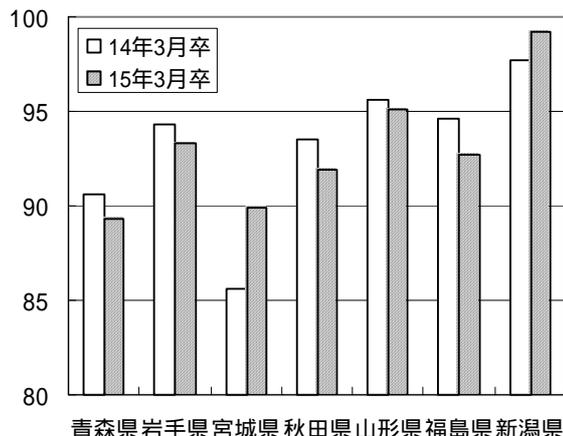
(倍) 図1-2 求人倍率の推移(季調値)



(%) 図1-3 年齢別完全失業率(原系列)



(%) 図1-4 高校新卒者の就職率



¹ (備考) 図1-1、図1-3は、総務省「労働力調査」により作成。データは四半期値であり、未季調。ここでの東北は青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島の6県。図1-2は、厚生労働省「一般職業紹介状況」により作成。ここでの東北は青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟の7県。図1-4は、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟の各労働局資料により作成。調査時点は各年とも4月末時点である。

<トピック2> 四国における新旧鋳工業生産指数かい離の要因¹

鋳工業生産指数の基準改定（平成7年基準 同12年基準）が各地域において順次行われている。このうち、四国の新旧指数のかい離は全国のそれよりも大きくなった。また、四国では直近のものほどかい離幅が大きくなる傾向にある（図2-1、図2-2）。このかい離を寄与度で見ると、電気機械の上方かい離による割合が年々拡大している（図2-3）。

今般の基準改定で、四国の電気機械では4つの採用品目の追加（蓄電池、インターホン、液晶素子、光電変換素子）があり、そのことがかい離幅の拡大に寄与したものと考えられる。これら4品目については、ここ数年で大きく伸びていると思われ、四国においても新たな産業分野が成長しているとみられる。

図2-1 全国・新旧鋳工業生産指数(季節調整値)

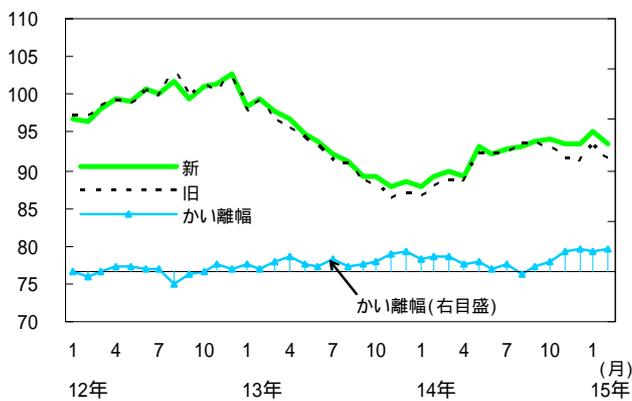


図2-2 四国・新旧鋳工業生産指数(季節調整値)

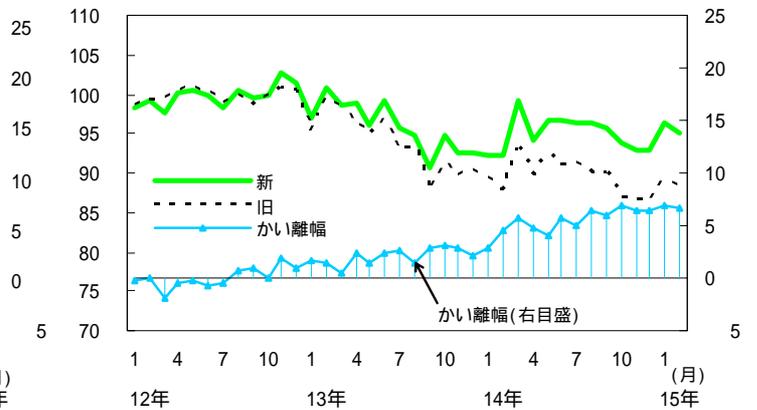
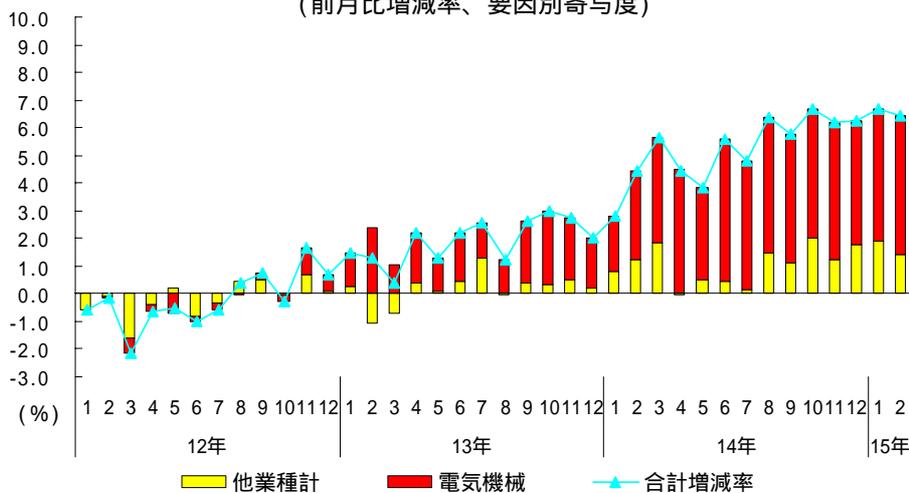


図2-3 四国における電気機械を要因とするかい離の拡大
(前月比増減率、要因別寄与度)



¹（備考）図2-1は、経済産業省「鋳工業指数」により作成。旧指数はH12=100に変換（図2-2も同様）。図2-2、図2-3は、四国経済産業局「鋳工業生産・出荷・在庫指数」により作成。